システム情報工学研究科社会工学専攻（社会工学学位プログラム）

学位論文（博士）審査基準

（審査体制）

学位論文の審査は、主査１名、副査４名以上の学位論文審査委員会を設置し、審査委員会の合議で行う。

これに加えて、以下を原則とする。

１．主査並びに副査２名以上は本研究科担当教員とする。

２．副査の内、１名以上は本専攻以外から選出する。

（評価項目）

１．研究テーマの意義

社会の諸事象に関わる問題を発見し、それを解決することが学術的、もしくは、社会に対する貢献に繋がる十分な意義を有すると認められるか。

２．先行研究の理解

研究テーマと関連する既存の理論と研究を広範かつ精確に把握し、客観的に評価が行われているかが問われる。また、その理解にもとづき、自己の研究が文献に対していかなるユニークな貢献を果たし得るのか、社会・経済、都市環境、経営組織とそこで働く人々にとって如何なる貢献或いは価値を持ち得るか、等について深く議論されているか。

３．研究方法の理解と妥当性

研究テーマを探求するための方法（論証、実験、シミュレーション、調査、サーベイ等の設計とデータの解析、等）を深く理解し、研究テーマの探求に向け、それを使いこなすスキルを十分に修得したと評価し得るか。

４．研究結果の提示と解釈の妥当性

研究結果を学術的に提示するスキル、及びそれを演繹的、或いは帰納的に解釈する思考力を備えていると評価し得るか。

５．研究総括

上記１～４のステップを俯瞰し、また、自己の研究の強みと弱みを客観的に評価したうえで、学術的貢献性、及び、将来の研究動向に向けて意義のある議論を展開出来ているか。

６．オリジナリティ

既存の知見に対して新知識を付加するオリジナル・リサーチと呼ぶにふさわしいか。

７．論文の形式

論文に用いられた文章表現の的確さ、図表・文献の提示や引用、及び文献リストの作成が学術論文としてふさわしい水準に達しているか。

（評価基準）

上記評価項目すべてが満たされていると認められるものを合格とする。

システム情報工学研究科社会工学専攻（社会工学学位プログラム）

学位論文（修士）審査基準

（審査体制）

学位論文の審査は、主査１名、副査２名以上の修士論文審査委員会を設置し、審査委員会の合議で行う。

なお、主査並びに副査２名以上は本研究科担当教員とする。

（評価項目）

１．研究テーマの意義

社会の諸事象に関わる問題を発見し、それを解決することが学術的、もしくは、社会に対する貢献に繋がる十分な意義を有すると認められるか。

２．先行研究の理解

研究テーマと関連する既存の理論と研究を精確に理解し、客観的に評価が行われているかが問われる。その上で、自己の研究が文献に対していかなる理論的貢献を付加し得るのか、或いは社会・経済、都市環境、経営組織とそこで働く人々にとって如何なる実際的意義を果たし得るか、等について深く議論されているか。

３．研究方法の理解と妥当性

研究テーマを探求するための方法（論証、実験、シミュレーション、調査、サーベイ等の設計とデータの解析、等）を深く理解し、研究テーマの探求に向け、それを使いこなすスキルを十分に修得したと評価し得るか。

４．研究結果の提示と解釈の妥当性

研究結果を学術的に提示するスキル、及びそれを演繹的、或いは帰納的に解釈する思考力を備えていると評価し得るか。

５．研究総括

上記１～４のステップを俯瞰し、また、自己の研究の強みと弱みを客観的に評価したうえで、社会に貢献し得る提言を行えるか、或いは将来の研究動向に向けて意義のある議論を展開出来ているか。

６．論文の形式

論文に用いられた文章表現の的確さ、図表・文献の提示や引用、及び文献リストの作成が学術論文としてふさわしい水準に達しているか。

（評価基準）

上記評価項目すべてが満たされていると認められるものを合格とする。

システム情報工学研究科社会工学専攻（サービス工学学位プログラム）

学位論文（修士）審査基準

（審査体制）

学位論文の審査は、主査１名、副査２名以上の修士論文審査委員会を設置し、審査委員会の合議で行う。

なお、主査並びに副査２名以上は本研究科担当教員とする。

（評価項目）

１．研究テーマの意義

サービス工学分野における現在と未来の生きた問題に立ち向かい、新たなサービスの方法の創造と実践に向けた意義を有すると認められるか。

２．先行研究の理解

研究テーマと関連する既存の理論と研究を精確に理解し、評価が行われているか。その上で、自己の研究が如何に文献に対して貢献し得るのか、或いはサービス工学分野において如何なる実際的意義を果たし得るかについて深く議論されているか。

３．研究方法の理解と妥当性

研究テーマを探求するための方法（論証、実験、シミュレーション、調査、サーベイ等の設計とデータ解析、等）を深く理解し、研究テーマの探求に向け、それを使いこなすスキルを十分に修得したと評価し得るか。

４．研究結果の提示と解釈の妥当性

研究結果を学術的に提示するスキル、及びそれを演繹的、或いは帰納的に解釈する思考力を備えていると評価し得るか。

５．研究総括

上記１～４のステップを俯瞰し、自己の研究の強みと弱みを客観的に評価したうえで、サービス工学分野に貢献し得る提言を行えるか、或いは将来の研究動向に向けて意義のある議論を展開出来ているか。

６．論文の形式

論文に用いられた文章表現の的確さ、図表・文献の提示や引用、及び文献リストの作成が学術論文としてふさわしい水準に達しているか。

（評価基準）

上記評価項目すべてが満たされていると認められるものを合格とする。